

【論文要旨】

日本語「～ておく」の用法について —全体構造及び意味構造を中心に—

4D502

徐梓競

第一章 はじめに

研究背景・目的・方法

本論文は、一見単純に見られる「～ておく」の用法に関して、その複雑な用法とその全体構造、及び意味構造について分析、考察を行ったものである。

研究方法としては、各種辞書・文法辞典・参考書・教科書・先行研究として、「～ておく」の用法についてどのようなもの挙げ、どのようにまとめているかをできる得る限り詳細に、また広く見ていった。これらの結果と孫逸珊氏の作成した『動詞一覧表』を基に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び、書籍、インターネットなどを検索し、用例を収集し、日本語教育の指導上の観点から、「～ておく」の用法を新たに分類し、その作業を通して、新たな用法を加え、分析し、「～ておく」の各用法の全体構造を明らかにしていった。さらに、その全体構造に潜む意味要素を抽出し、前景化、背景化の観点から「～ておく」の意味構造を明らかにしていった。

第二章 「～ておく」の用法について

第二章「『～ておく』の用法について」では、辞書・参考書・教科書、及び、先行研究における用法分類をでき得る限り広く、詳細に行った。その結果、次の表のような結論を得た。

表 3. 辞書・参考書・教科書の用法のまとめ

<p>用法①「準備」、「前もってする」、「事態の起こる前に現状を変化させ、積極的に処理しようとする」……</p> <p>例：行く前に相手に<u>電話しておく</u>。</p>
<p>用法②「一時的処置」「当座の処置としてある動作を行う意を表す」、「さし当たってあることをする」……</p> <p>例：もう締め切り過ぎているが一応あずかるだけ<u>あずかっておく</u>。</p>
<p>用法③「放置」、「放任」「その状態をそのまま続ける」、「動作や状態をそのまま続けさせる」……</p> <p>例：故障した自転車をほうって一・いたらさびついてしまった</p>
<p>用法④「その状態を認めて、そのままにする」、「現在の状況を、積極的に維持しようとする」……</p> <p>例：私のことはほっておいて下さい</p>

表 4. 先行研究における用法分類のまとめ

<p>用法①「対象の位置を変化させ、その結果の状態を持続させることをあらわす」</p> <p>例：わたしの家では、見かねて、このあいだ、「ごみをすてないでください。」と、<u>立てふだを立てて</u>おきました。</p>
<p>用法②「対象を変化させて、その結果の状態を持続させることをあらわす」</p> <p>例：「加藤さんは奥さんに<u>鍵をあずけておいた</u>んです」</p>
<p>用法③「放置」、「放任」</p> <p>例：「ほうっておけばいいんだよ！」</p>
<p>用法④ ある時までに対象に変化を与えることをあらわす。</p> <p>例：議題を予告し、資料があれば<u>配っておく</u>。</p>
<p>用法⑤「準備」</p> <p>例：アメリカに行く前に英語を<u>学んでおく</u>。</p>
<p>用法⑥「期限内の完了」</p> <p>例：検査前日7時までに晩御飯を<u>食べておいで</u>ください。</p>
<p>用法⑦「用心・警告」</p> <p>例：一言<u>いっておく</u>が、二度と失敗は許さんぞ。</p> <p>用法⑧「仮初の行為」</p> <p>例：まあ、一応、考えておきましょう。</p>
<p>用法⑨「聞き手への配慮」</p> <p>例：いらっしゃい、<u>お安くしておきますよ</u>。</p>
<p>用法⑩「自己納得」、「心理的充足行為を表す」、「心理的準備」</p> <p>例：元気なうちに、いろんな国を<u>旅行しておきたい</u>んだ。</p>
<p>用法⑪「終結的宣言」、「結語」</p> <p>例：最後に、以上論じてきたような観点から、「ハ」と「ガ」の機能をここで<u>まとめておこう</u>。</p>

第三章「～ておく」の用法の分類と分析

第三章『～ておく』の用法の分類と分析においては、第二章においてまとめた辞書・参考書・教科書・先行研究の用法の分類の問題点を分析し、さらに、孫逸珊氏の作成した『動詞一覧表』を基に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び、書籍、インターネットで検索し、用例を収集し、新たに1.「準備」、2.「知識・情報の獲得・提示」、3.「予防」、4.「期限内対策」、5.「事後対策」、6.「現状対策」、7.「一時的処置」、8.「単なる状態の継続、維持」、9.「目的（理由）がある現状の維持」、10.「保存」、11.「保管」、12.「放置」、その他、後悔（～おけばよかった）の12種に分類した。このうち、2.「知識・情報の獲得・提示」、3.「予防」、4.「期限内対策」、8.「単なる状態の継続、維持」、10.「保存」、11.「保管」、その他、後悔（～おけばよかった）は、本研究で、新たに分類した用法である。

1の「準備」に関しては、この用法がすべての辞書・参考書・教科書・先行研究で取り上げられていることから、これを「～ておく」のプロトタイプと考え、分析を行った。そこで、「準備」の用例に共通するものとして、将来あることを実現する、あるいは、よりよく遂行するためにという「目的（理由）」があり、その「目的（理由）」のために、前もって何らかの対策をとる、そして、その対策行為の結果を「継続」、あるいは「維持」させるということが挙げられる。このことから、「準備」の用法は、「目的（理由）」、「その対策としての行為」、「行為の結果の継続、維持」という三つの要素から構成されているものと考えた。また、「準備」の用法は、将来あることを実現させる、あるいは、よりよく遂行するために、事前に何らかの対策をとるということであり、「事前対策」であると考えた。

2の「知識・情報の獲得・提示」に関しては、用例の分析から、具体的な目的は明示されていないが、その背景には、いつか役に立つとか、あるいは、将来自分の人生を豊かにしてくれるかもしれないとか、知っていたほうが良いといった漠然とした「目的（理由）」が存在し、そのための有益な「知識・情報の獲得・提示」という「対策としての行為」とその「知識・情報の蓄積」という三つの要素から成り立っていると考え、「知識・情報の獲得・提示」の用法と名づけた。これも、将来役に立つ知識・情報の獲得・提示ということで、「準備」と同様に、一種の「事前対策」であると考えた。

3の「予防」の用法に関しては、用例の分析から、将来あることを実現させる、あるいは、よりよく遂行するために、事前に何らかの対策をとるという「準備」の用法と異なり、将来予想される悪い事態が起こらないように、すなわち、そのような事態が起こることを防ぐために、あるいは回避するために、前もって何らかの対策をとるということであると

考え、この意味で新たに「予防」という一項を立てた。また、「予防」の用法は、悪い事態が起こらないように、すなわち、そのような事態が起こることを防ぐために、あるいは回避するために、前もって何らかの対策をとるということであり、これも、「準備」と同様に、一種の「事前対策」であると考えた。

4 の「期限内対策」の用法に関しては、用例の分析から、将来できなくなる時期が来ると考え、できる期限内、事前に何らかの対策をとるということであると考え、新たに「期限内対策」という一項を立てた。この「期限内対策」の用法は、将来できなくなるという時期が来ると考え、できる期限内、事前に何らかの対策をとるということであり、つまり、これも、「準備」と「予防」と同様に、一種の「事前対策」であると考えた。

5 の「事後対策」の用法は、用例の分析から、既に生じた問題に対して、事前ではなく、事後に何らかの対策をとるということであると考え、「事後対策」の用法と名付けた。

6 の「現状対策」の用法は、用例の分析から既に生じた問題に対処して、事後にその解決策として、何らかの対策をとるということであるという「事後対策」と異なり、今現在ある問題になっていることについて今何らかの対策をとるという用法である。

7 の「一時的処置」の用法は、後で本格に処置するという目的が存在するが、とりあえず今は、現在ある問題に対して暫定的に何らかの対策をとるという「一時的処置」の用法である。また、今現在ある問題に対して何らかの対策をとることに焦点があるため、この「一時的処置」は、「現状対策」の一種であると考えられる。

8 の「単なる状態の継続、維持」の用法は、単純な状態の継続、維持を表すという用法である。この用法には、現在、あるいは将来の問題を解決するためとか、あるいは、あることを実現させるといった意味は存在せず、単にある状態を継続、維持させるということにのみ焦点がある。

9 の「目的（理由）がある現状の維持」の用法は、8 の「単なる状態の継続、維持」の用法とは異なり、何らかの目的（理由）があり、そのために積極的に現在の状態を維持するものである。

10 の「保存」の用法は、ある物に対して、その物が悪い状態にならないように、すなわち傷まないように、または、消失しないように、何らかの対策を講じて、その結果生じた状態を保ち続けるということである。

11 の「保管」の用法は、ある物に対して、その物が紛失したりしないように、その物がある場所に移動させ、その結果生じた状態を保ち続けるということである。

12の「放置」の用法は、本来、何らかの対策を講じなければいけないのに、その対策を講じずに何もしないで、そのままの状態を継続するというものである。

その他、「後悔（～おけばよかった）」は、中上級でよく取り扱われる文型であるが、「～ておく」と「～ば よかった」とから複合的に構成された文型である。この「～おけばよかった」の意味は、期限内対策を怠ったために生じたことに対する「後悔」の念を表す用法である。この用法は、「～ておく」の「期限内対策」の用法と「～ば よかった」という、あることをしなかったために生じた「後悔」の用法が合体したことから生じた用法であると考えられる。

「～ておく」の各用法を表でまとめると、以下のようになる。

表 3. 「～ておく」の各用法の分析の結果

1.	準備	あることを実現させ、或いは、よりよく遂行するために事前に何らかの対策をとること
2.	知識・情報の獲得・提示	将来、何らかの役に立つ可能性がある（目的）知識、情報を獲得・提示すること
3.	予防	将来予想される悪い事態を回避するために、事前に何らかの対策をとること
4.	期限内対策	将来あることができなくなる時期が来ると考え、できるうちに何らかの対策をとること
5.	事後対策	既に生じた問題に対処して、事後に何らかの対策をとること
6.	現状対策	今現在問題になっていることについて今何らの対策をとること
7.	一時的処置	後で本格的に処置するという目的も存在するが、とりあえず、今現在起こっている問題に対して、今できる何らかの対策をとること
8.	単なる状態の継続、維持	単なる状態を長時間継続、維持すること
9.	目的（理由）がある現状の維持	ある目的、あるいは理由があり、積極的に現在の状態をそのまま維持すること
10.	保存	ある物に対して、その物が悪い状態にならないように、また、消失しないように、何らかの対策を講じて、その結果、生じた状態を保ち続けること
11.	保管	ある物に対して、その物が紛失したりしないように、ある場所に移動させ、その結果生じた状態を保ち続けること
12.	放置	本来対策を講じなければいけないのに、その対策を講じずに何もしないで、そのままの状態を継続すること
その他	後悔（～おけばよかった）	中上級の複合的文型。「～ておく」の「期限内対策」を怠ったために生じたことに対する「～ばよかった」という「後悔」の念とが複合したもの

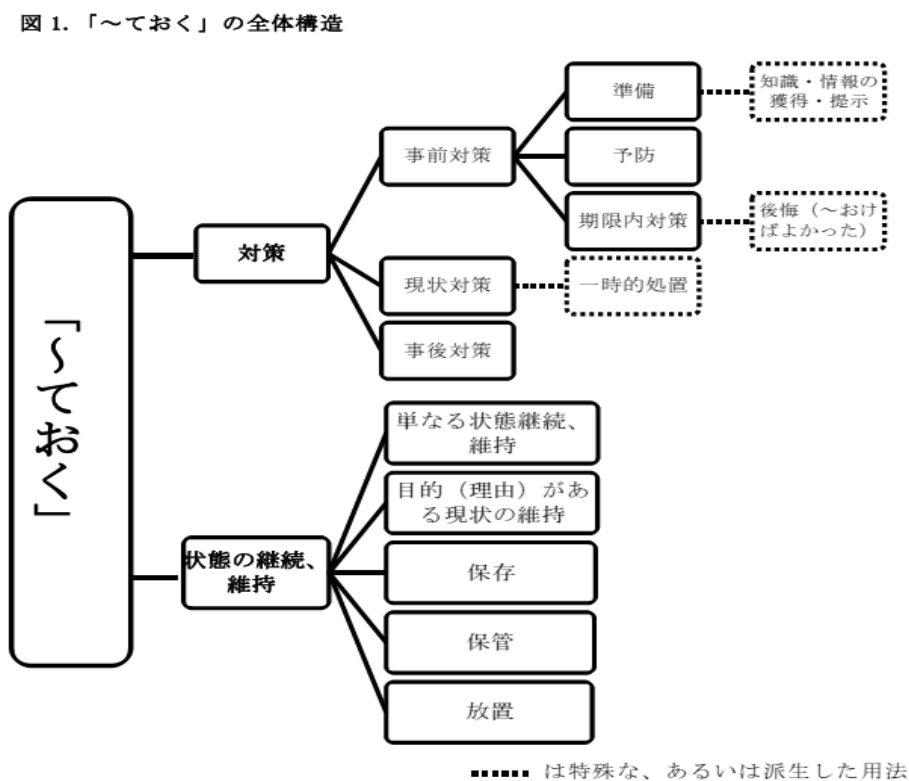
第四章 「～ておく」の全体構造及び意味構造

第四章では、「～ておく」の全体構造及び意味構造について論じた。まず、「～ておく」の全体構造については、12の用法を分析し、大きく「対策」と「状態の継続、維持」の二つに分けた。

さらに、「対策」に関しては、問題を解決するための対策とその時間関係によって、「事前対策」、「事後対策」、「現状対策」の三つに大きく分け、「事前対策」に関しては、将来の問題の解決の内容によって、「準備」、「予防」、「期限内対策」の三つに分けた。さらに、「準備」に関しては、その特殊な用法として、「知識・情報の獲得・提示」をその下に配置した。「期限内対策」に関しては、派生的な用法として、「～ておけばよかった」を分類した。また、「現状対策」に関しては、派生的な用法として、「一時的処置」をその下に分類した。

「状態の継続、維持」に関しては、目的性の有無などの要素が加わることにより、「単なる状態継続、維持」から、「目的（理由）がある現状の維持」、「保存」、「保管」、「放置」といった用法に分けた。

以上のことを図で示したものが、次の図1.「『～ておく』の全体構造」である。



次に、「～ておく」の意味構造について論じた。まず、最も基本的と考えられる「準備」という用法の分析から「～ておく」の基本要素として、「目的（理由）」、「その対策としての行為」、「行為の結果の継続、維持」の三つの要素を得た。

さらに、この「目的（理由）」、「その対策としての行為」、「行為の結果の継続、維持」の三つの基本要素について、第三章で分類した12の用法を分析していった。

1の「準備」の用法であるが、この用法の場合ある「目的（理由）」が存在し、その目的の達成のために事前にその「対策としての行為」を行い、そして、その行為の結果が目的達成まで何らかの形で継続、維持されるという「行為の結果の継続、維持」の三要素から構成されていることが分かった。

2の「知識・情報の獲得・提示」の用法は、将来何かの役に立つかもしれないという「目的（理由）」と、知識・情報を提示するという「対策としての行為」、そして、その結果、生じた状態（知識・情報）が相手の記憶に蓄積される。すなわち役に立つまで継続、維持させるという「行為の結果の継続、維持」の三要素から成っている。

3の「予防」の用法は、将来予想される悪い事態を回避するためという「目的（理由）」と、そのために対策をとるという「対策としての行為」、そして、その行為の結果が何らかの形で継続、維持されるという「行為の結果の継続、維持」の三要素から構成されている。

4の「期限内対策」は「将来あることができなくなる時期が来るという「理由」と、そのために、できるうちに何らかの対策をとるという「対策としての行為」という二つの要素が現れているが、他の用法に見られる「行為の結果の継続、維持」、つまり将来できなくなる時期が来るまでの「行為の結果の継続、維持」というニュアンスはあまり感じられない。

5の「事後対策」は「既に生じた問題に対処するという「目的（理由）」、とその問題を生じた後で何らかの対策をとるという「対策としての行為」、そして、既に生じている問題から対策までの時間的な継続性が考えられる。この場合は、時間的に逆方向になるため、「行為の結果の継続、維持」ではなく、「問題の存在の継続」となる。これは、その時間的構造から、谷口(2000)が述べた「事態の終結性」、すなわち、この場合は、問題の事後解決となる。

6の「現状対策」は、今現在問題になっていることを解決するためにという「目的（理由）」、この目的に対して、事前でも、事後でもなく、今その問題に対処するという「対策としての行為」という二つの要素が存在する。しかし、問題は今現在既に生じており、そ

の対策までの時間的な継続性が考えられるため、「事後対策」の一種と考えられるが、この場合は、「目的（理由）」と「対策としての行為」の間に時間的な差がほとんどないため、「現状対策」となる。したがって、明確な「問題の存在の継続」という要素はほとんど感じられない。

7の「一時的処置」は、今現在ある問題を解決するためという「目的」、その目的に対して、今現在できる何らかの対策をとるというで、「現状対策」の一種と考えられるが、後で本格的な「対策としての行為」が行われるということで、一時的な「対策としての行為」となる。後で行われる本格的な対策までのその一時的な「行為の結果の継続、維持」という三要素から構成されている。

8の「単なる状態の継続、維持」は単なる状態を長時間継続、維持することであるが、用例 112) の「ごぼうは香りがおいしいさのひとつです。水につけておくと、水が真っ黒になります、…」とあるように、「目的（理由）」も、「対策としての行為」も感じられなく、単に「行為の結果の継続、維持」のみが存在することが分かった。

9の「目的（理由）がある現状の維持」はある目的、あるいは理由があり、積極的に現在の状態をそのまま維持することであるが、用例としては、次のようなものである。

116) テレビを消してもいいですか。

…もうすぐニュースの時間ですから、つけておいてください。

この用例を見ると、もうすぐニュースの時間で、そのニュースが見たいという「目的（理由）」がある。また、「対策としての行為」に関しては、何もしない（テレビを消さない）という「不作為」の行為がある。その結果、現在テレビをつけた状態を積極的に維持するという「行為の結果の継続、維持」が存在し、三要素が全て揃っている。

10の「保存」はある物に対して、その物が悪い状態にならないように、また、消失しないように、何らかの対策を講じて、その結果生じた状態を保ち続けることであるが、121) の「…冷凍庫に入れておけば長持ちします」とあるように、食物を傷まないようにするという「目的（理由）」があり、そのために、冷凍庫に入れるという「対策としての行為」があり、さらに、入れた後の状態を保ち続けるという「行為の結果の継続、維持」も存在すること。

11の「保管」はある物に対して、その物が紛失したりしないように、ある場所に移動さ

せ、その結果生じた状態を保ち続けることであるが、125)の「いずれにしても、報告書はどこか安全な場所にしまっておこうと思った」とあるように、報告書が紛失したりしないようにという「目的（理由）」があり、また、安全な場所に移動させという「対策としての行為」があり、さらに、安全な場所にしまった後の状態を保ち続けるという「行為の結果の継続、維持」のいずれの三要素も存在する。

12の「放置」は本来対策を講じなければいけないのに、その対策を講じずに何もしないで（怠って）、そのままの状態を継続することであるが、「対策としての行為」に関しては、何もしないという「不作為」の行為があり、また、不作為という行為の結果、現在の状態を継続されるという要素も存在するが、その「目的（理由）」は既に消えてしまっている。

以上のように、各用法を「目的（理由）」、「その対策としての行為」、「行為の結果の継続、維持」の三つの基本要素から分析していった。その結果、この三つの基本要素がすべて揃っているものとそうでないものとがあることがわかった。この違いがどのようにして生じたのか、三つの基本要素の前景化と背景化の関係から分析していった。

1の「準備」に関しては、基本要素としては、「目的（理由）」、「対策としての行為」、「行為の結果の継続、維持」の三つの基本要素が揃っている。しかし、「目的（理由）」、「対策としての行為」は明確であるが、「行為の結果の継続、維持」はやや弱く感じられる。このことから、「準備」の用法は、「目的（理由）」、「対策としての行為」が前景化し、その「行為の結果の継続、維持」はほぼ背景化していると言える。

2の「知識・情報の獲得・提示」の用法は、知識・情報の獲得・提示という「対策としての行為」が最も強く、前景化し、将来何かの役に立つかもしれないという「目的（理由）」はやや弱く感じられる。また、知識・情報の蓄積という「行為の結果の継続、維持」もやや弱く感じられ、背景化していると考えられる。

3の「予防」の用法は、将来予想される悪い事態を回避するためという「目的（理由）」、また、「対策としての行為」は明確であるが、「行為の結果の継続、維持」はやや弱く感じられる。このことから、「予防」の用法は、「目的（理由）」、「対策としての行為」が前景化し、その「行為の結果の継続、維持」は背景化していると言える。

4の「期限内対策」は、将来あることができなくなる時期が来るという「理由」、また、「対策としての行為」は明確であるが、「行為の結果の継続、維持」はやや弱く感じられる。このことから、「期限内対策」の用法は、「目的（理由）」、「対策としての行為」が前景化し、その「行為の結果の継続、維持」は背景化していると言える。

5 の「事後対策」は、既に生じた問題を解決するためという「目的（理由）」、また、事後に何らかの対策をとるという「対策としての行為」は明確である。しかし、問題から対策までの時間的な継続性が考えられるが、この場合は、その継続性は弱く感じられる。このことから、「事後対策」の用法は、「目的（理由）」、「対策としての行為」が前景化し、その「問題の存在の継続」は背景化していると考えられる。

6 の「現状対策」は、現在問題になっていることを解決するためにという「目的」、この目的に対して、今何らかの対策をとるという「対策としての行為」という二つの要素は明確であるが、現在の問題から現状対策までの時間的な継続性はほとんど感じられない。このことから、「現状対策」の用法は、「目的（理由）」、「対策としての行為」が前景化し、その「問題の存在の継続」は背景化していると言える。

7 の「一時的処置」は、今現在、存在する問題を解決するためという「目的（理由）」、及び、その目的に対して、今できる何らかの対策をとるという一時的な「対策としての行為」は明確である。したがって、「目的（理由）」、「対策としての行為」は前景化し、後で行われる本格的な対策までのその一時的な「行為の結果の継続、維持」という要素がやや潜在化し、背景化していると言える。

8 の「単なる状態の継続、維持」は、「目的（理由）」も、「対策としての行為」もほとんど感じられず、背景化し、単に「行為の結果の継続、維持」のみが前景化していると言える。

9 の「目的（理由）がある現状の維持」は、「目的（理由）」が存在するが、弱く感じられる。また、「対策としての行為」に関しては、何もしないという「不作為」の行為になり、明確であると考えられる。また、その結果、現在生じている状態に変化を加えず、積極的に維持するという「行為の結果の継続、維持」が存在し、明確である。このことから、この「目的（理由）がある現状の維持」の用法は、「対策としての行為」（ここは「現状に対する不作為」となる）、「行為の結果の継続、維持」（ここは「現状の維持」となる）が前景化し、「目的（理由）」が背景化していると言える。

10 の「保存」は、ある物に対して、その物が悪い状態にならないように、また、消失しないようにという「目的（理由）」が存在するが、かなり弱く感じられる。また、何らかの対策をとるという「対策としての行為」、行為の結果生じた状態を保ち続けるという「行為の結果の継続、維持」が明確である。このことから、この「保存」の用法は、「対策としての行為」、行為の結果生じた状態を保ち続けるという「行為の結果の継続、維持」が前景化

し、ある物に対して、その物が悪い状態にならないように、また、消失しないようにという「目的(理由)」が背景化していると言える。

11 の「保管」は、ある物に対して、その物が紛失したりしないようにという「目的(理由)」が存在するが、かなり弱く感じられる。また、ある場所に移動させるという「対策としての行為」、行為の結果生じた状態を保ち続けるという「行為の結果の継続、維持」は明確である。このことから、この「保管」の用法は、「対策としての行為」、行為の結果生じた状態を保ち続けるという「行為の結果の継続、維持」が前景化し、ある物に対して、その物が紛失したりしないようにという「目的(理由)」が背景化していると言える。

12 の「放置」は、「対策としての行為」に関しては、何もしないという「現状に対する不作為」の行為になり、明確であると考えられる。また、その結果、現在生じている状態を継続するという「行為の結果の継続」が存在し、明確である。しかし、その「目的(理由)」は既に消えてしまっている。このことから、「放置」の用法は、「対策としての行為」(ここは「現状に対する不作為」となる)、「行為の結果の継続、維持」(ここは「現状の継続」となる)が前景化し、目的(理由)が消滅していると言える。

第五章 結論

第五章においては、本論文の第一章から第四章までの結論についてまとめ、将来の課題について述べた。

以上が本論文「日本語「～ておく」の用法について―全体構造及び意味構造を中心に―」の要旨である。